

## 三宅島の火山活動について

三宅島の火山活動について、本日の火山噴火予知連絡会での検討結果は次の通りです。

6月29日までの三宅島の火山活動については、火山噴火予知連絡会（伊豆部会）コメントのとおりです。

その後、7月4日頃から山頂直下で地震が観測されはじめ、7月5日には、山麓に影響を及ぼすものではないが、山頂部での活動に注意を要する状態となりました。

山頂直下の地震は、8日にはさらに増加し、昼頃からは微動も次第に大きくなりました。また、地殻変動は、6月末から三宅島が収縮する方向で変化が継続していましたが、8日からその変化が加速し、同日18時41分頃に山頂で噴煙が上がりました。噴煙は、高さ800メートルに達しましたが、10分程でなくなりました。

9日の現地調査で、山頂カルデラ内に直径約1000メートル、深さ約200メートルの陥没孔が確認されました。噴出物の量は、陥没した体積に比べ非常に少なく、マグマ物質は認められませんでした。

このことから、今回の山頂の陥没は、初期に貫入したマグマの移動等に関連し、地下に存在していた空隙へ、カルデラ底が崩壊したことによるものと考えられます。

現在も山頂直下の地震活動及び地殻変動が続いていることから、今後も噴煙や噴石をとまなう山頂カルデラの陥没現象が引き続き発生するかも知れません。

当面、山頂付近では引き続き注意が必要ですが、山麓に影響を及ぼすことはないと考えられます。